

専任教員教育研究業績

平成29年5月15日

氏名	ふりがな	所属	職位	性別
木戸 貴弘	きど たかひろ	保育学科 通信教育課程	教授・准教授・講師・ 助教	(男)・女

担当科目名

「健康・スポーツ理論」「身体表現Ⅱ」「健康指導法」

学歴

和暦(西暦)年 月	事項	学位
平成20(2008)年4月	福岡教育大学教育学部 中等教育教員養成課程 保健体育専攻 入学	
平成24(2012)年3月	福岡教育大学教育学部 中等教育教員養成課程 保健体育専攻 卒業	学士(教育学)
平成24(2012)年4月	福岡教育大学大学院 教育学研究科 保健体育コース 入学	
平成26(2014)年3月	福岡教育大学大学院 教育学研究科 保健体育コース 修了	修士(教育学)

教育歴・職歴

名称	期間	教育内容又は業務内容
学校法人白藤学園 奈良保育学院	平成26年4月～ 平成29年3月	専任講師「体育Ⅰ」「体育Ⅱ」「幼児体育Ⅰ」「幼児体育Ⅱ」 「健康(保育内容)」「課題研究」
学校法人白藤学園 奈良女子高等学校	平成26年4月～ 平成28年3月	非常勤講師「体育(スポーツⅥ)」
小田原短期大学	平成29年4月～ 現在に至る	保育学科通信教育課程 特任助教

所属学会等

名称	活動期間	活動内容(役職等の活動を含む)
九州体育・スポーツ学会	平成25年4月～ 現在に至る	会員
アジア幼児体育学会	平成26年4月～ 現在に至る	会員
日本幼児体育学会	平成26年4月～ 現在に至る	会員
日本発育発達学会	平成27年4月～ 現在に至る	会員
日本体操学会	平成29年4月～ 現在に至る	会員

社会活動等

名称	活動期間	活動内容
奈良市教育委員会委託事業 くろかみやま自然塾講師	平成28年4月～	小学生(1年生～6年生)を対象とした野外体験活動における講師

担当教科目に関する資格・免許等

名称	取得年月	取得機関
小学校教諭免許状	平成24年3月	福岡県教育委員会
子ども身体発達運動指導士	平成25年10月	公益財団法人日本スポーツクラブ協会
中学校教諭専修免許状 (保健体育)	平成26年3月	福岡県教育委員会
高等学校教諭専修免許状 (保健体育)	平成26年3月	福岡県教育委員会

研究実績に関する事項				
代表的な著書、論文等の名称	単著 共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概要
(著書) 特記事項なし				
(学術論文) 1. 大学野球選手における形態的特徴と競技成績の関連性について—2012年全日本野球選手権大会からみた検討—	共著	平成25年3月	健康・スポーツ科学研究 第1号 pp.11-17	本研究では2012年全日本大学野球選手権大会における出場登録選手の形態的特徴とチームの結果を比較検討することにより、野球に必要とされる望ましい体格や体型を導き出そうと試みた。対象は、2012年全日本大学野球選手権大会に出場した26チーム、選手649人とした。チーム成績によってA、B、C群に分類し比較検討を行った。結果として、大学野球には望ましい体格や体型があると推察され、また、体重、BMIの大きさは骨格筋量の多さと考えられ、少なからずチームの成績に影響を与えているものと推察された。 著者：木戸貴弘、斎藤敬嘉、金相培、市丸直人
2. 教科専門と教科教育を融合した体育授業教材の作成演習—体育史(教科専門)の内容を体育授業に活用する事例—	共著	平成25年3月	教育実践研究 第21号 pp.135-141	体育授業の実践のために活用できる教科専門の内容を模索し、その一端を教材として活用できる事例の作成を試みた。今日、教科専門がいかにか教科教育に貢献可能であるかということをごうした試みを手がかりに着手されてよい。本稿では教材作成のヒントを体育史の歴史的事象からとらえ直し、体育授業の指示・説明時に活用できるイラストを作成するとともに、歴史的観点を活用した教材(教具)を作成した。 著者：川合修一、木戸貴弘、蔵元彩、鈴木康信、山城朋大、榊原浩晃
3. 大学野球全国大会上位進出のための可能性について—NBU野球部員2012年度の体格指数と技能レベルのデータからの検討—	共著	平成25年10月	日本文理大学紀要 第41巻 第2号 pp.27-32	本研究では日本文理大学(NBU)硬式野球部員の体格およびその指数と野球に関する技能レベルを比較検討した。245人を対象とし、その技能レベルによりA、B、C群に分類した。身長はA群とC群、体重はB群とC群で有意な傾向を認めた。NBU硬式野球部員全体の身長は174.6cm、BMIは24.3で、昨年度の全日本大学野球選手権大会進出校の数値と酷似する値であった。過体重は技能にマイナスの影響を及ぼすことが示唆された。体格指数として、チーム平均176cm程度の高い身長とBMI24.2程度のバランスのとれた体型が理想的であることが推測され、A群はその数値に近い値を認めた。 著者：中村壽博、高武良至信、木戸貴弘、斎藤敬嘉、村上光平、金相培、市丸直人
4. 幼児期における運動遊びが投動作獲得に及ぼす影響について—一年長児の投能力向上に着目して—	単著	平成26年12月	奈良保育学院研究紀要 第16号 pp.61-72	本研究では幼児期、特に年長児の投能力向上に着目し、運動遊びの違いにより投能力、投動作の獲得にどのような影響を及ぼすのか検討を行った。 A群はコントロール群、B群は2種類の投動作獲得にむけた運動遊びを実施した群、C群は投動作を含む自由な運動遊び群とした。 本研究の結果から、投能力について、すべての群において男女で0.01%以下の有意差を認めた。男子は、B群、C群で投能力が向上した。女子は、B群のみに投能力の向上を認め、投動作についても同様に男子は、B群、C群で向上し、女子は、B群のみに向上を認めた。

5. 長座体前屈計による柔軟性測定の有用性	共著	平成 28 年 2 月	福岡教育大学紀要第 65 号 第 5 分冊 pp.85-88	本研究では、長座体前屈に着目し、幼児、小学生、中学生、大学生における長座体前屈の記録が、体格、特に身長がその記録において影響を与えているのではないかと考え比較検討した。結果として、幼児では身長と長座体前屈の記録との間に有意な関係性を認めた。小学生、中学生、大学生では身長と長座体前屈の記録との間に有意な関係性を認めなかった。文部科学省が定める各年齢層における身体の柔軟性の測定種目、方法としての長座体前屈は妥当であることが示唆された。 著者：木戸貴弘、山本裕太郎、金相培、市丸直人
6. 幼児期における発育が運動能力に及ぼす影響についてーボール投げに着目してー	単著	平成 28 年 12 月	奈良保育学院研究紀要 第 17 号 pp.67-74	本研究では、幼児期における発育、特に身長、体重、カウプ指数の個人差が運動能力に及ぼす影響について明らかにすることを目的とした。運動能力に関しては、投能力の指標であるテニスボール投げについて検討を行った。対象者は、幼稚園や保育所に通う年長児（5 歳～6 歳）250 名とした。結果より、身長、体重、カウプ指数と投能力の関係は、男女とも全ての項目において有意性を認めなかった。よって、幼児期における発育は投能力に影響を及ぼしていないことが推察された。
7. 幼稚園教育要領領域「健康」の変遷と展望に関する一考察	単著	平成 28 年 12 月	奈良保育学院研究紀要第 17 号 pp.93-101	本研究では、文部科学省が告示する幼稚園における教育課程の基準になっている幼稚園教育要領についての考察とともに、領域「健康」についてこれまでの変遷と今後の展望について考察した。幼稚園教育要領は時代の流れや社会環境の変化とともに改訂が繰り返され、現在に至っている。2018（平成 30）年の改訂では、「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が新しく記載される予定である。また、領域「健康」は、時代背景における考察から「体力の向上」「食育の推進」「安全教育」を中心に、一層、充実した内容の記載がされるのではないかと示唆された。
(その他) 「学会発表」 1. 人の寿命に影響を及ぼす職場環境ー歴代プロ野球監督のチーム成績とその年数との関係についてー	共同	平成 24 年 11 月	『人類働態学会 西日本地方会第 37 回大会』（西日本工業大学）	プロ野球における歴代監督の就任期間のチーム成績と、監督の寿命を照らし合わせ、勝敗によって、心身に与える影響がどの程度あるのか分析した。チーム成績と監督の寿命に関する相関関係が得られ、有意性も認められた。結果として、チーム成績と監督の寿命は関係性があると示唆された。
2. 筋力とバットの握りが打球速度と飛距離に及ぼす影響について	共同	平成 24 年 12 月	『第 25 回日本トレーニング科学大会』（立命館大学びわこくさつキャンパス）	筋力とバットの握りが打球速度と飛距離に及ぼす影響について検討した。結果より、バットは長く握った方が速い打球になるが飛距離の変化はない。握力値は高い方が速い打球にはなるが、飛距離との相関関係はない。全身的な筋力の強さは打球速度、飛距離ともに有意な相関関係があることが推察された。
3. リストの筋力トレーニングが投球速度に及ぼす影響について	共同	平成 25 年 8 月	『第 62 回九州体育・スポーツ学会』（九州共立大学）	本研究では、リスト部位に着目し、そのトレーニングが筋力に及ぼす影響および握力と投球速度との関連性について検討した。被験者は 20 名とし、リストカールとリストエクステンションをトレーニングとして採用し実施した。トレーニング開始前に握力と投球速度を測定した。2 か月間のトレーニング後、同様の測定を行った。投球速度はトレーニング前後において有意に向上した。投球速度と握力の間には有意な相関関係は認められなかった。

4. フリースロー時における注意の向け方がシュート成功率に及ぼす影響について	共同	平成 25 年 8 月	『第 62 回九州体育・スポーツ学会』(九州共立大学)	本研究では、バスケットボール未経験者が、フリースロー時の注意の向け方の違いによりシュートの成功率がどのように異なるかを検討した。学生 33 名を対象に、エクスターナルフォーカス群、インターナルフォーカス群、コントロール群の 3 群に割り当てた。結果より、バスケットボール未経験者のフリースロー時においては、エクスターナルフォーカス群のシュート成功率が有意に増加し、運動技能習得のためには有効であることが示唆された。
5. 長座体前屈計による柔軟性測定制限	共同	平成 27 年 5 月	『日本生理人類学会第 72 回大会』(北海道大学)	長座体前屈に着目し、幼児、小学生、中学生、大学生における長座体前屈の記録が、体格、特に身長がその記録において影響を与えているのではないかと考え比較検討した。柔軟性に富むと思われる幼児では、この測定法は不適だと考えられるが、実際の測定では小学生以上の集団に限られるため、体格などの影響は極めて少ないと示唆された。
6. 保育者養成校学生による基本的動作観察法に関する取組みー幼児期の投動作についてー	単独	平成 27 年 8 月	『日本幼児体育学会第 11 回大会』(京都ノートルダム女子大学)	保育者養成校に通う学生の目線から幼児期の投動作の観察法について考察した。専門学校保育科に在籍する 53 名を対象に行った。先行研究と比較すると簡単な観察法になったが、将来幼稚園、保育所に就職する見込みである保育者養成校の学生にとって、ポイントを絞り、子どもの動きを観察することが重要であることが示唆された。
その他 (表彰等) 特記事項なし				